

○ 有限会社哲多町堆肥センターは、市内の大型農場(肉用牛、養鶏、養豚) から家畜ふんを受け入れて一定割合でブレンド後、堆肥化し販売。

■国内資源の種類

・牛ふん
・豚ふん
・鶏ふん
・副資材
(おがくず、バーク、もみ殻、間伐材)

■肥料の種類・肥料名称

・種類：特殊肥料（堆肥）
・肥料名：すずらん堆肥

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

・畜産経営の大規模化により家畜排せつ物の処理が問題となるとともに、耕種農家から高品質な堆肥のニーズが高まったことを受け、平成10年から旧哲多町の堆肥センターとして稼働し、現在、(有)哲多町堆肥センターが管理している。

取組の内容

・大規模畜産団地の家畜排せつ物処理を一手に引き受け、製品販売を戦略的にやっている。
・リン等の肥料成分が高く肥効が早い鶏ふん、豚ふんに、土づくりに効果の高い牛ふんをバランス良く配合し、即効性と持続性のある堆肥を生産。また、耕種農家の希望があれば、新見市内外へ堆肥の散布作業も行っている。

成果（見込み）

・稲わらや稲WCS、飼料用トウモロコシ等と堆肥を交換する耕畜連携の重要な役割を担うとともに、県内の耕種農家に対しては、堆肥散布作業も行い、資源循環型農業の確立に貢献している。また、化学肥料の代替として、すずらん堆肥を散布することにより地力が増強し、コメの食味向上にも貢献している。

■主成分の含有量（%）、特徴等

N	P	K	C/N比
2.4	4.7	4.0	12

(原物あたり)
石灰9.8%、 ケイ酸8.6%

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ

資源供給者

畜産農家
(新見市)
牛：3戸、7,300 t
豚：2戸、3,800 t
鶏：3戸、3,200 t

14,300 t

肥料製造者

(有)哲多町堆肥センター
(新見市)

販売割合

35%

65%

肥料利用者

地域の農家
(水稻等)

(利用者の声) 水稻に使うと小米が減り生産量が増加し、倒伏に強くなり、食味が良くなったよ。

岡山県内の農家

堆肥センター





■今後の課題・取組

1 物価高の影響で、化成肥料が高騰している現在、堆肥の役割は重要で、さらなるPRで販売促進をする必要がある。

2 新見市内大規模畜産団地の排せつ物処理を順調に行うことで、安定した畜産経営が維持できる。

3 施設の機械類の計画的な更新・整備が必要で、スクープ式攪拌機及びスクリー等の異常による処理能力の低下が課題となっている。